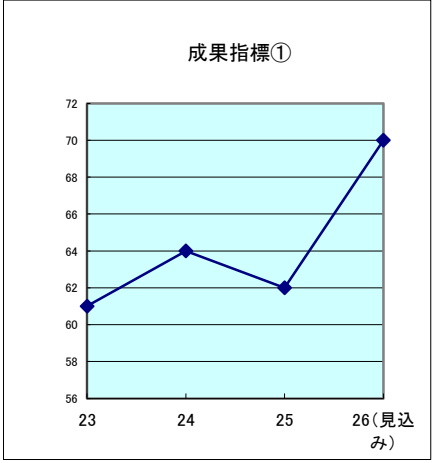
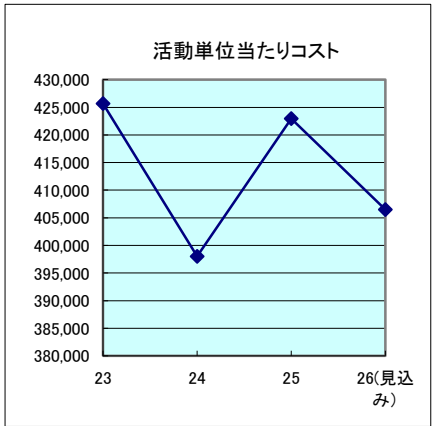


事務事業名			生活文化情報センター管理運営事業		予算科目	会計	1	一般会計	
						款	2	総務費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち			項	1	総務管理費	
	施策(節)	5	市民文化・芸術			目	11	生活文化情報センター費	
	施策の方向	(2)	文化・芸術活動の促進と仕組みづくり			事業	1	生活文化情報センター施設管理	
関連する計画等					作成部署	市長公室政策推進課（情報管理担当）			
					(連絡先)	072 - 958 - 1111 内線 4740			
事業の概要(目的・内容)			生活・文化・情報をキーワードに、会議室や実習室をはじめ、ホール、展示ギャラリー、図書館などを備え、市民の交流や学習活動、文化・芸術鑑賞の場として、サービスを展開している。実質の運営は指定管理者制度を導入し、協調してサービスの向上と効果的な運営を図る。						
根拠法令等			羽曳野市立生活文化情報センター条例 羽曳野市立生活文化情報センター条例施行規則						
事業期間			☒ 10年以上 ☐ 5年以上10年未満 ☐ 5年未満（平成 年度開始）						
事業開始時からの状況変化			市の芸術・文化ホールとして定着し、パイプオルガン設置ホールとしても全国的に知れ渡るところとなったため、市外からの利用も相当数ある。情報化促進・啓発分野においては、各家庭へのコンピュータおよびインターネット導入が相当進み、館が担うべき役割を再考すべき時期に差し掛かっている。開館から13年が経過しており、施設の内外において老朽化が目立つ。特にアトリウムの水密機能や電気設備等について大規模な修繕が必要になっている。						
実施手法			☐ 直営 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先			☒ 市外郭団体委託 名称(みのりの里)				委託内容		施設管理運営業務
			☐ 民間委託 ☐ その他						

区 分		23年度	24年度	25年度	26年度
		(実績)	(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		151,643	141,718	152,009	146,165
人件費【2】 (千円)		2,880	2,760	1,104	1,391
職員数	正規職員	0.40 人	0.40 人	0.16 人	0.20 人
	再任用職員	人	人	人	人
	嘱託職員	人	人	人	人
	臨時職員	人	人	人	人
超過勤務(参考) (時間)		時間	時間	時間	時間
総事業費 (【1】+【2】) 【A】 (千円)		154,523	144,478	153,113	147,556
財源内訳	国庫支出金 (千円)				
	府支出金 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他(使用料・手数料等) (千円)				
	一般財源 【B】 (千円)	154,523	144,478	153,113	147,556
活動指標 【C】		23年度	24年度	25年度	26年度
(事業の活動実績) 単位					(見込み)
① 開館日数	日	363	363	362	363
②					
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①)		425,683 円	398,011 円	422,964 円	406,490 円
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】①)		425,683 円	398,011 円	422,964 円	406,490 円
市民1人当たりコスト (【A】÷人口)		1,310 円	1,234 円	1,314 円	1,278 円
一般財源【B】の推移(前年度比)			▲ 6.5 %	6.0 %	▲ 3.6 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ✓) ※該当項目すべてに✓		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 2. 左記			
		☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫			
		☒ 5. その他(H25年度の事業費の増加は、重要設備・高			



成果指標 (事業の達成度)	指標名		単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	① 施設稼働率 (式又は説明) 館内各施設稼働率の平均値		%	目標 70	70	70	70
				実績 61	64	62	88.6%
	②			目標			達成率(%)
	(式又は説明)			実績			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
		○				○		○		

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	生活文化情報センターは、本市の文化・芸術事業をはじめ、市民の学習や諸活動の場を提供している施設である。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	管理運営には、指定管理者制度を導入して、サービス向上、経費の削減に努めている。一部の機能が市民会館と重複している。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☐	☒	☐	
		市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない	☒	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☒	☐	☐	来館者や施設利用者の意見をアンケート等により集約し、施設運営に反映させている。
	有効性	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	館全体の利用が減っており、目標値に届かなかった。
	達成度	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	館全体の利用が減っており、前年度の実績値を割り込んだ。

担当部局評価	総合評価	
	☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 (概ね現行どおり継続して実施) (実施方法の改善を検討する) (事業規模の縮小を検討する) (廃止・休止を検討する)	
	今後に向けて(取組方針・具体的な改善改革案など)	
	基本的な業務自体は継続し、運営の手法や施設の使用形態について見直しを行う。 どの設備にも一定老朽化が認められるため、必要な修繕を行うことで館の機能や魅力を修復し、利用者の回帰を促す。	
行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 継 続 ☐ 改 善 ☐ 縮 小 ☐ 廃止・休止	